



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町登田1030-2

毎週 日曜日 発行

インターネットでも
ご覧いただけます

http://www.kyokai.com/

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木 康子
42-2462

日本の医療行政の原点岩手県 沢内村を視察

深沢村長以来の生命尊重行政の歴史と現状

市議会議員・福田 明



深沢晟雄元村長の銅像の前で。右から、高橋和子・西和賀町議、宇野隆子・常陸太田市議、福田明、鈴木康子両市議。

11月5、6日、日本共産党北茨城市議団は、岩手県の旧・沢内村（現在は合併で西和賀町）および宮城県涌谷町の医療・福祉行政等を視察しました。今号では沢内村について福田明議員が報告します。

生命尊重の村づくり

奥羽山脈の東麓、和賀川沿いに集落が点在する旧・沢内村は秋の陽射しに山が紅く燃えていた。

役場に向う途中、タクシーの運転手に「深沢村長はすごい人だったのですか」と尋ねると「あれだけのことを本気でやった人は、他にいねえんでは」と、訛って答えた。

深沢晟雄まこと氏は1957年に51歳で村長に就任。以来、

2期8年、59歳で逝くまで全生涯を「生命尊重」の自治体づくりに尽くした。

当時、沢内村は「豪雪・貧困・多病」に苦悩していた。乳児死亡率は全国一高い。冬は陸の孤島で村民は深く沈んでいた。この難題に村長は立ち向かった。豪雪はブルドーザーを購入して除雪。夏はこのブルドーザーで開墾し、田畑を広げて農家の収入増をはかった。

問題は多病である。村長は村立病院を充実させ、最も弱い立場の乳児と老人の早期診断、早期治療を実施した。そして1960年、全国初めて65歳以上の老人医療費の無料化を実現。翌年にはその年齢を60才に引上げると同時に、乳幼児医療費の無料化も実施した。その結果、62年には全国初の乳幼児死亡ゼロを達成し、「生命尊重の村」沢内村の名

が一躍有名になった。

後から国はついてくる

私は、25年前に26才で議員になったが、それ以来、深沢村長の政治理念を尊敬し、村が推進する予防医学に興味をもってきた。機会があれば、ぜひ沢内村を訪ねたいと願っていた。それだけに今回の視察は感慨深いものがある。

村長は、いくつも明言を吐いているが、特に有名なのが老人医療費の無料化実施の時である。国や県は「それは法律違反である」との圧力をかけ、実施を阻止しようとしたが、村長は「法律には反しているかもしれないが、憲法違反ではない。生命を守ることは本来、国、県がやるべきこと。国、県がやらなければ、村がやる。かならず後から国はついて来る」と喝破した。事実、73年、国の制度として老人医療費の無料化が実現した。

また、村長は医師に対しても容赦しなかった。「医師は給料が高いね。村にとって必要だから払うが、サラリーマン根性を出したら承知せんよ」と赴任した医師に述べたという。現在、村立沢内病院も医



テレビ時代劇

写真は、テレビ画面からです。NHKで放映されている木曜時代劇「風の果て」という番組。市内、磯原町大塚地区の水田などでロケがおこなれました。地元の皆さんも出演しているそうです。お知り合いは見つかりましたか？

心にしみた。

沢内村は昨年、湯田町と合併し西和賀町になった。合併の際、「沢内の生命尊重の理念が生かされなければ、合併はしない」と村は述べたという。その結果、老人医療費の無料化制度はなくなったが、65才以上は外来は月1500円、入院は月5000円までを限度にそれ以上は無料にする助成制度をつくった。

誇りと自信、脈々と

視察の面倒をみていただいた共産党の高橋和子議員は元・保健師で村の生命行政を担ってきた人である。「保健師は本来、憲法25条を守り、実践する責任がある。帰ったら地元の保健師さんにも伝えてほしい」と述べ、

深沢村長が亡くなって約40年。豪雪に泣き、貧困で医者にもかかれなかった、かつての沢内村は想像できない。しかし、沢内村を訪ねて、現地の風を感じ、そこで出会った人々の笑顔と心の中に、深沢村長と共に自分たちの生命を自分たちで守り抜いた誇りと自信が、脈々と生きていることを感じた。